

魏 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ事前指導 第 27 回 SC 交通安全対策委員会	
日 時	令和 4 年 12 月 22 日（木）10：40～12：00	
場 所	えーるピア久留米 209 研修室、210・211 研修室	
出席者	委 員	小西委員長、白倉副委員長、服部委員、田中委員、深川委員、深山委員、平林委員、工藤委員、野口委員、岡部委員、田中委員、古賀委員、今村委員
	事務局	坂田主査、田中
欠 席 者	西田委員、赤松委員、野上委員、岡崎委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 正副委員長選出 2. 事前指導 (1) 開会 (2) 出席者紹介 (3) プレゼンテーション発表 (4) 質疑応答 (5) 閉会	
質 疑 等	1. 正副委員長の選出（事務局より提案） 委員長に小西委員、副委員長に白倉委員を選出 2. 事前指導 丁寧な情報を盛り込んだ様々な統計データ等を示されていたので、久留米市の状況が非常によく理解できた。 反射材の配布や交通安全教室など、対策委員会では主にソフト面について取り組んでいる。行動を変えることによって、事故に遭わないようにしようとしている。人の行動は直ぐには変わらないので、根気強く取り組む必要があり、非常に難しいところにチャレンジしている。 本番に向け、より全体的に久留米市の交通安全の状況を知っていただくためにアドバイスすると、もう少し情報があればより理解しやすい。例えば、交通安全の取り組み全体の中でどこを対策委員会が主に担い、成果を生んでいるのかということ。 今の報告でもあったが、国や県、市それぞれが行っている様々な取り組みを説明するなど、交通安全の全体像がもう少し見えたほうが理解しやすい。そうすることで、対策委員会の役割と成果が引き立って説明できると思うので、コメントします。	
審 査 員 【チ ョ 先生】		

審 査 員
【ワン先生】

現地審査では、自転車の場合が一番効果があると言われているヘルメットについてはどうなっているのかとか、あるいは飲酒運転の状況はどうかなどといったことについても聞かれる可能性がある。交通安全教室の中にヘルメットについても触れているなら説明に入れるとより効果的な内容になるし、飲酒運転については世界的によく聞かれる内容であるため、初めから説明に入れておくと言問がでずに済む。

現在の資料ではきちんとコアを示せているので、どのように肉付けさせていくかという点で本番に向けて整理すると思う。

全国的に表彰されたということは、日本の他の自治体の中でもとりわけ大きな成果を収められていることなので、非常にうれしく思う。おめでとうございます。

非常にデータをうまく活用されている。例えば、交通安全講座でどれだけ知識が得られた、どれだけ行動が変わったのかデータを収集し見える化しているのが素晴らしい。また、民間企業と協働し取り組んでいる点も素晴らしい。

環境、啓発、教育の3つの分野で、それぞれ国、県、市がどのような取り組みを行っているのか示している表が、とても大切な点だと思う。

対策委員会では教育と啓発に集中して取り組んでいるが、他の部分と一緒にになって成果を生んでいるというところもあると思うので、全体像も示していくことが大切。

今後のチャレンジとして意識を変えていくことを目指しているが、これが一番大変だと思う。ヘルメットを被った方が絶対安全だと分かっているけど被らないことが問題で、被ってない人に千回言っても被らない人が出てくる。そういう人に言い続けていたら状況が変わるかということ、おそらく他の工夫が必要になってくる。そうなったときに、何故か被らないのかということをお皆さんで議論するのは一つの方法だと思う。

例えば、かっこわるいからヘルメットを被らない、かっこよくすれば被るようになるのだったら、ヘルメットを製造している民間企業にヘルメットのデザインを提案するとか。他の自治体ではヘルメットコンテストなどを実施している自治体もあるが、そういうことをすれば小さい時から被るようになるのではないかと、皆様はデータを持っているので教育だけではなく色々環境とか仕組みとかにアプローチできるのではないかと考えた。子どものヘルメットだけでなく、大人の行動が変わらない、反射材を付けないということについても、恐らく付けたほうが良いと分かっていると思う。しかし、付けていない。次のステップに向けて、何故身に付けないのか考えてみることにチャレンジするのも一つと思う。

そして、もう一つ、見せ方の問題。スライド22で実際の件数を挙げているが、他のページで示すように人口10万人当たりの件数で示した方が、審査員は分かり易い、成果が見えやすい。

指摘事項等	No	助言・指摘事項・課題
	1	久留米市の全体像を知ってもらうために、対策委員会以外の取り組みも示した方がよい。例えば、道路に関するハード事業や飲酒運転撲滅の啓発は、こういう関係機関が担っている。その中で対策委員会は、このようなことを という見せ方をした方がよい。
	2	人の意識を変えるというのが一番難しい。今後は、啓発だけでなく一歩踏み込んだ取り組みが必要になる場面が出てくる。例えば、自転車のヘルメット着用を呼び掛けたとして、一定数、着用しない人がでてくる。その時、何故被らないかを調べてください。その答えが「かっこ悪いから」ならば、メーカーへの働きかけやヘルメットコンテストなど新しい方針が見えてくるはず。
	3	（資料２２ページ 取り組みによる全体的な効果のグラフなど）データが実数になっているところがある。審査員としては、人口割りしてくれた方が分かりやすい。